

申し送り時間の短縮に向けた業務改善への取り組み  
～リーダーシートを活用したチームカンファレンスを行って～

3階西病棟 ○瀬戸口舞 財津莉絵 岩村安梨紗 矢羽田和希 長谷部 孝

【はじめに】

当病棟は申し送りに時間を要している現状があった。國岡は「申し送りは情報伝達の手段として行われているが、看護業務を行う上で時間的損失となり、時間外労働の大きな原因となり、これらによって起きる看護師のベッドサイドケアの不十分感が生じる」<sup>1)</sup>と述べているようにスタッフからも同じ様な声が聞かれた。そこで前年度当病棟の研究において、作成・導入したリーダーシートを用いての申し送り時間の短縮に向けた業務改善ができないかと考えた。今回、リーダーシートの見直しを行い、それを活用しチームカンファレンスを行うことで申し送り時間の短縮及び情報共有・統一を図る目的にて研究に取り組んだ。

【研究方法】

期間：H29年7/10～H30年1/6 対象：3階西病棟勤務看護師25名

方法：①申し送り時間の計測を行い改善前後の短縮時間の把握②前年度作成したリーダーシートの項目見直し、リーダーシートの作成の実施、リーダーシートの使用、口頭で申し送る対象患者マニュアルを作成③リーダーシートを活用し申し送りを朝各チームカンファレンスへ変更し情報共有に繋げる④リーダーシートの利用、朝のチームカンファレンス開始後のスタッフへアンケート調査を実施。

【結果・考察】

申し送りは、勤務交代時に次の勤務者に正しい情報を伝達し継続した看護を提供する為に行われている。当病棟ではリーダーシートを使用しつつ同じことを繰り返し口頭で申し送る傾向があった。申し送りが長かった理由として、全患者をリーダーシートとケアを併用・確認し、そのまま全情報を次に送る状況があった。又受け手は患者の情報を申し送りを中心に得ようとしていたため、時間がかかったと考えられた。斎藤らは「ポイントメモを有効活用することで、早い、正しい、分かりやすい伝達に結びつく」<sup>2)</sup>と述べている。今回リーダーシート項目の見直しを行い、患者情報の整理が出来たことで一目で情報を把握することが可能となった。またチームカンファレンスにおいて、対象患者のみを互いに確認し合い変化がない他患者に対しては、リーダーシートを活用し口頭で申し送らないようにしたことが、時間短縮に繋がったと考えられる。リーダーが各メンバーに申し送りを行う場合、時間を要し、各自が自分の受持ち患者の情報だけで看護し他患者については情報を詳しく把握していない状況があった。カンファレンスを行うことで、看護師個人の対応のみで終わることなく、チーム全体で同じ対応ができるようになると言われている。今回チームカンファレンスを導入することで、チームの情報共有・統一へと繋がり時間短縮へと導くことができ、チーム内のスムーズな協力体制へと繋げることが出来たと考える。アンケート結果でも、リーダーシートによる情報伝達、チームカンファレンスでの情報共有が出来たと全員が答えていた。しかしその中で2件のインシデントが発生したが、リーダーの気付きにより、アクシデントの発生には至らなかった。この要因としてチームカンファレンスの場が一方的な情報伝達になっており、各自情報収集は行っても受け身の状態で参加していたため、カンファレンスとしての機能を果たせていなかったと考える。厚生労働省が掲げているチーム医療推進では「カンファレンスを充実させることが必要であり、カンファレンスが単なる情報交換の場ではなく議論・調整の場であることを認識することが重要である」<sup>3)</sup>と言われている。1人1人が主体となってチームカンファレンスに参加することで、意見交換が行え、複数の目で確認出来るためリーダーシートの間違いや情報漏れに気づくことが出来るのではないかと考える。このようなことから今後はチームカンファレンスの運用方法を再検討し、ディスカッション出来るカンファレンスを行い安全な医療・看護の提供、充実に繋げていくことが重要となる。

【おわりに】

リーダーシートを活用し、チームカンファレンスを取り入れたことで申し送り時間短縮による業務改善に繋がった。今後、よりよい医療・看護の提供及び充実にに向けたチームカンファレンスの運用方法について改善していきたい。